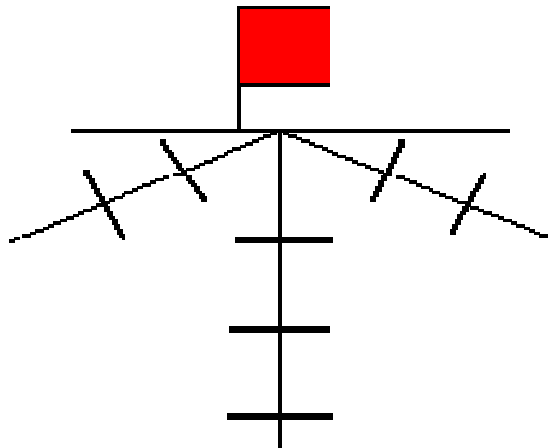


# ACCURACY

アキュラシーは、スローの正確さを競うゲームである。地上1mの高さにある1.5m×1.5mの的に向かってディスクを投げ、何投通過させることが出来るかを競う。ほとんどゲーム感覚でできるこのゲームは、イベントなどでも人気が高い。しかし、一旦公式大会となると、この1.5m四方の的がどれだけ小さく見えることか。ただ四角形的にディスクを入れるだけのゲームが、なぜかこの上ない緊張感をもたらす。素人には、的当てゲームとしての楽しさを与え、玄人には、ディスクを正確に飛ばすということの難しさを改めて教えてくれる。それがアキュラシーだ。

## コート

地上1mの高さにある1.5m四方の的に、13.5m正面、22.5m正面、31.5m正面、13.5m右斜め、13.5m左斜め、21.5m右斜め、21.5m左斜めの7箇所から4投ずつ計28投のスローをする。



## ディスク

国内で最も多く使われているのは恐らくディスクラフト社製ウルトラスターだろう。海外で主流となっているのはイノーバチャンピオン社製ゼファーで、国内でも人気がある。その他、ディスクラフト社製スカイプロやイノーバチャンピオン社製アップルを使用するプレイヤー、また、Wham-O社製ワールドシリーズを使用するプレイヤーも多い。

## 用具

特別な用具は必要ない。

## 方法

的に向かってディスクを投げ、何投その的を通過させることが出来るかを競う。何mの距離から何投投げるかは、状況に応じて決めればよい。但し公式の大会では、13.5mの距離で正面、右斜め、左斜めの3箇所、21.5mの距離で正面、右斜め、左斜めの3箇所、31.5mの距離で正面からの計7箇所から、4投ずつ計28投スローをし、1.5m四方の的を何投通過させることが出来るかを競う。プレイヤーは、どの場所から投げてもよく、順番は関係ない。7分で28投を投げなければならない。

# DISTANCE

フライングディスクスポーツの中で最も単純、かつ基本的な競技である。ディスクをどれだけ遠くまで投げることが出来るか、ただそれを競うだけである。しかし、他の投てき競技がそうであるように、その単純さ故に、本能を刺激する面白さがある。その面白さは、飛んだ距離にだけあるのではない。ディスクが描く軌跡は芸術とも言えるほど美しい。その美しさこそが、人々を魅了するのかもしれない。



## コート

平らで障害物がない場所が望ましい。芝生ならばなお良い。プレーヤーは、幅3m、長さ15mのサイトからスローをする。

## ディスク

ディスタンス用のディスクには様々な種類がある。国内外を問わず、主流となっているのは、ディスクラフト社製サイクロン。その他人気があるのは、ディスクラフト社製X-クロン、イノーバチャンピオン社製バイパー、ガゼールなど。今年発売され、世界記録を塗り替えたことで話題となった新ディスク、ディスクラフト社製XLが今後の主流か。

ディスタンスは、たくさんのディスクの中から自分に合うディスクを選ぶのも好記録を出す重要な要因なのだが、ディスクを制限し、全員が同じ種類のディスクを使用するような場合もある。この場合、ディスクの性能に頼らず、性能をどれだけ引き出すかが大事になる。これもまた、別の面白さがある。

## 用具

用具など要らない。己の体のみ。

## 方法

とにかく力いっぱい投げるだけである。公式の大会では、プレーヤーは、決められたサイトから2分30秒以内に5投投げる。最も遠くに飛んだディスクの記録がそのプレーヤーの記録となる。